

創作劇「とこしま堰物語」の公演活動 ～地域の資源（筑後川）を活かした教育活動～

久留米市立金島小学校

金島小学校の概要について

筑後川中流域に位置する本校は、明治11(1878)年に鏡村立金島小学校として開校した。平成17年の市町村合併で北野町立金島小学校から久留米市立金島小学校となった。

現在、全校児童数117名の小規模校で、縦割り活動を多く取り入れ、異学年で集団登下校するなど学年を超えたつながりがある。

久留米市について

久留米市は、福岡県の南部（筑後地方）にあり、福岡市、北九州市に次ぐ人口30万人の中核都市である。

東西約32km、南北約16kmと東西に長く、市の北東部から南西部にかけて筑後川が流れている。筑後川に沿って、南側を東西に耳納（みのう）山・高良山・明星山などの山々が連なっている。

温暖で四季の変化に富んだ「水と緑の人間都市」として、農業、商工業ともに盛んである。

筑後川について

筑後川は、その源を熊本県阿蘇郡瀬の本高原に発し、大分県の日田盆地、福岡県の筑紫平野を流れ、有明海に注ぐ長さ143km、流路面積2,860km²の九州最大の一級河川である。

その流域は、熊本、大分、福岡、佐賀の4県にまたが

り、上流域には大分県日田市、中流域には、福岡県久留米市、うきは市、朝倉市、下流域には福岡県大川市、佐賀県佐賀市がある。

筑後川は、坂東太郎（利根川）、四国三郎（吉野川）



筑後川上流（日田市）



筑後川中流（久留米市）



筑後川下流（大川市、佐賀市）



とともに「筑紫次郎」と呼ばれてきた三大暴れ河川ではあるが、古来多くの恵みを筑紫平野に与え、我が国でも生産性の高い農地を形成してきた。

とこしま堰の概要

床島堰とは、筑後川に設けられた恵利堰とこの堰により取水した床島用水路およびその途中にある百間堰と下流にある佐田堰を含めた総称である。

床島堰築造以前のこの金島の地は、ため池の貯水によってかんがいする程度で干ばつとなれば、すぐに水源は枯渇する状態であった。水量が豊富で広大な筑後川がありながら、取水ができなかったため農民は度重なる干害に苦しめられていた。

その苦しみを救いたいとの一心で筑後川からの取水計画を私財や命を賭けて遂行しようとする者が現れた。鏡村庄屋高山六右衛門をはじめとする五人の庄屋（五庄屋）である。

工事監督に迎えられた草野又六と五庄屋の偉業により床島堰は1712年に完成し、この土地は1,428haの肥沃な田園地帯となり、水稻・麦・野菜などの栽培が盛んに行われるようになった。のちに、草野又六と五人の



恵利堰



大堰神社

庄屋（高山六右衛門、秋山新左衛門、鹿毛甚右衛門、中垣清右衛門、丸林善左衛門）は、その偉業をたたえられ、床島用水路の分岐路にある大堰神社に祀られている。

活動の概要

本校区には筑後川、そして約300年前に作られた床島用水路が流れている。児童は総合的な学習の時間にこの地域の資源「とこしま堰」について学んでいる。その集大成として、平成8年から毎年、秋に行われる「きたの総合文化祭」において、全児童で創作劇「とこしま堰物語（五庄屋劇）」を上演している。

◎用水路の安全について学ぶ。（低学年）

- ・ 校区内に床島用水路が流れていることに気づき、用水路の安全について学ぶ。

◎床島用水路について学ぶ。（3年生）

- ・ 校区内探検を通して、床島用水の位置や役割について学ぶ。

◎床島堰と5人の庄屋について学ぶ。（4年生）

- ・ 校区の近くを流れる筑後川について調べる。
- ・ 地域ボランティアの方々と共に、筑後川の散策探究活動をし、学習課題をつくる。
- ・ 約300年前の金島校区は、水が引けず、稲が育たず、大変貧しい農村であった。この状況を打破するため、筑後川の水を田畑に引いてくる計画を立てた先人がいたことを知る。
- ・ 五庄屋を始めとする農民たちが、筑後川に堰を造り、用水路を造成していく過程と苦労を学ぶ。
- ・ 先人たちの苦労は、自分たちの地域に留まらず、周りの地域の人々をも潤すことにつながっていったことを学ぶ。
- ・ 先人たちの偉業についての学びから、現在の暮らし



地域ボランティアの方と床島用水をさかのぼる

へのつながりや自分の生き方について考える。

◎米づくりの活動と音楽隊としての参加を通して、先人たちの偉業を実感する。(5年生)

- ・4年生の学びと関連づけながら、米づくり(育苗、田植え、除草、稲刈り)の活動を行う。
- ・音楽隊を編成し、劇の音楽や挿入歌を歌う。
- ・水や食べ物の大切さ、有り難さを学び、学校で楽しく学べる実感を体験させる。

◎劇を通して、「ふるさと金島」への思いを膨らませる。(6年生)

- ・五庄屋、村人等の役に扮し、全員で当時の様子や自分の思いを表現し、地域に発信する。

<28年度「とこしま堰物語」の表現主題>

苦しい中、自分を信じ仲間を信じて、村人も庄屋も団結して命がけで堰づくりをやり遂げた、その一人ひとりの思いを表現しよう。

◎「とこしま堰物語」の公演活動。(全学年)

- ・6年生は、1学期終わりから台本作成、配役についての話し合い、台本読みを行う。
- ・5年生は、9月から音楽隊を編成し、練習を開始する。
- ・4年生は、公演のスタートを飾る「とこしま堰の紹介」(プレゼンテーション)を作成・練習する。
- ・「地域スタッフ」を募り、金島の歴史に詳しい地元の方やPTAからの協力を得て、衣装づくりや演劇指導を行ってもらう。

<劇のフィナーレ>

- ・1年生から6年生までの全校児童が、観覧されている人々に校歌を合唱してフィナーレを迎える。



音楽隊として挿入歌を歌う5年生

- ・校歌は、明治11年開校当時から歌われ続けられており、筑後川や五庄屋の功績に思いを馳せた内容となっている。

<金島小学校校歌>

水洋洋と流れゆく
筑後河畔に 春たてば
若草萌ゆる 放水路
眺めはるかに 金島の
健児の 意気や 天をつく

思えば遠き 五庄屋の
身をささげたる いさおしに
秋天高く 地は肥えて
垂穂豊けき わが村の
平和に永久の 光あれ

紫匂う 耳納山の
えんえんとして ゆるぎなき
御代をたたえて 朝夕に
いざやつとめん もろともに
鉄よりかたき 心もて



フィナーレ：全校児童による校歌合唱

活動の必要性・緊急性

この「とこしま堰物語(五庄屋劇)」は、筑後川にまつわる実話である。水の尊さ・有難さ・大切さを、子どもたちが身近な筑後川や床島堰を教材として学習していく。

私たちの郷土「かねしま」は、雄大な筑後川が流れる筑後平野にある。今、米づくり、野菜づくりの盛んな

土地である。しかし、約300年前の江戸時代は、目の前の水を田や畑に引くことができず、人々は苦しい生活を強いられていた。そこに、地元の農民が立ち上がり、命をかけて堰工事を行い、床島用水路を完成させた。

児童にとって、郷土に生きた先人たちの取り組みを学び、その苦労や思いに触れることは、郷土に誇りを持ち、地域の一員としてその発展にかかわっていかうとする態度を育てる上で意義深い。

活動の効果・社会への波及効果

床島堰の完成によって、周辺の水事情は格段に良くなり、実りの秋を迎えることができるようになっている。先人たちの偉業を、これから先も受け継いでいくためには、学年に応じて筑後川や床島堰にかかわり、そこに生きた人々に思いを馳せ、その学びを発信していく活動が必要になっていく。

その活動を通して、郷土「かねしま」に誇りを持ち、ふるさとを愛し、たくましく生きる人間の育成に繋がっていくと考える。

ちなみに第一回で主役を演じた児童は、その後、小学校の教員となりその志を引き継いで活躍している。

また、本活動を支える地域の方々、保護者の方々も、そうした児童の成長を期待し、楽しみにして参加してい

ただいている。学校にとどまらず地域の新しい伝統として根付いてきたように感じられる。

活動の今後の計画

福岡県の委嘱による「マイスクール・マイタウン事業」で始まったこの取り組みは、平成8（1996）年に「五庄屋劇」として初上演された。そして平成29年、第22回公演を目指して全児童は動き出している。

金島小学校全児童が、自分たちが住んでいる町、筑後川について、学んでいく。その学びは、郷土の歴史を学ぶにとどまらず、「水の大切さ」を学ぶことから「学校、そして地域で生きる力を学ぶ」ことへと発展していく。

これからも「とこしま堰物語（五庄屋劇）」の取り組みを全校児童で引き継ぎ、守っていく。この活動を通して筑後川を知り、さらに筑後川の恵みで育てられた米や野菜を味わいながら、先人たちの偉業を感じていきたい。

それが、子ども達にとって、将来、未来の地域（金島、久留米市、そして日本）を支え、築いていく、そうした基盤としての感動体験となることと信じている。

久留米市立金島小学校



「とこしま堰物語」の上演を終えた6年生児童と地域スタッフ